

【第 2 回配布用】意見提出様式

第 4 次南伊勢町総合計画策定審議会（第 3 回）に向けた事前意見の提出について

本日提示いたしました「答申案」および「第 4 次南伊勢町総合計画（基本計画案）」について、次回の第 3 回審議会にて最終承認および町長への答申を行う予定です。

つきましては、内容の最終確認として、修正が必要な点や追加すべき視点等がございましたら、本紙にてご提出をお願い申し上げます。

なお、ご提出いただいたご意見は、審議会当日（第 3 回）において全委員で共有させていただきます。

【意見記入欄】

（※提出は任意様式、または電子メール本文への記入でも構いません）

氏名 白髭美由紀

先日は大変お世話になりました、ありがとうございました。

折角なので、ダメもとでお伝えさせてください。

資料 5 別紙 2 安全安心のまちプロジェクト の中に、下記の文面のようなものを付け加えて頂けたら、より 安全安心を実感できるのではないのでしょうか？

●（高齢者の多いまちであり、年齢問わず耳の不自由な方もみえるので）

聴覚に障害があっても「目」から緊急避難指示を受け、逃げる体制を整えます。

もしくは、整えることを目指します。

提出先

（郵送の場合） 516-0194 三重県度会郡南伊勢町五ヶ所浦 3057

南伊勢町役場まちづくり推進課 政策係宛

（FAX の場合） 0599-66-1846

（mail の場合） machi@town.minamiise.lg.jp

総合計画修正案（村林）

青柳委員の発言は、町の財政の心配だけではなく、どんな収入で生計をたてているのか、といったまちの未来の総合的な姿が見えないという意味に受け取りました。

その意味で、追記された将来の姿はわかりやすく良いと思いました。

一方、青柳委員の発言を受けた、私の発言は、重点プロジェクトを念頭に置いて、総合計画がバックキャスティングの考え方であるならば、それぞれの重点プロジェクトもバックキャスティングの考え方で書かれなければならない、（バックキャスティングを実現するのが重点プロジェクト）つまり、20年後の未来をつくるためのプロジェクトなのだから、それぞれのプロジェクトごとに20年後のめざす姿をおいて、そこからバックキャストして、この4年間に取り組むべきものを提示しなければならないと考えました。

参考までに、私のイメージを形にしてみました。

単なる例示ですので、役場の各課で考えてください。

なお、推進段階での進捗管理では、何をやったのかではなくて、この姿にどれだけ近づけたのかという観点から、進捗を評価・共有できます。

重点1 活力ある産業・経済プロジェクト

まちづくりの目標

地域資源の「協創（リデザイン）」と稼ぐ力の抜本的強化により、子どもに継がせたいと思う仕事が生まれ続けるまちをつくる。

↓

まちづくりの目標（20年後の姿）

一次産業の新たな可能性が開かれているとともに、地域資源を生かした新たな産業が生まれています。若い人たちを含めて多くの人たちが、産業に従事しています。新しい産業の展開には、町民だけでなく、町外の人たちも参画しています。

（参考事例）

五ヶ所浦では、農業者グループが十数年前にワイン用のブドウの栽培を始めた。

伊勢にワインの醸造所ができ、地元産のワイン用のブドウの需要が発生した。

観光ホテルでは、地元の食材と合わせる地元産のワインの需要があった。

今では、地元の栽培グループと醸造所、ホテルの協力・連携ができています。

重点2 安全安心のまちプロジェクト

まちづくりの目標

大規模災害への「適応策」と日常生活の安全安心対策を強化し、自助・共助・公助が連携して命と暮らしを守るまちをつくる。

↓

まちづくりの目標（20年後の姿）

集落ごとに自助・共助・公助が連携する体制が整えられていて、大規模地震や津波に対してはできる限りの備えができています。危険な空き家は解体され、残された空き家は有効に活用されています。道路や水道、さらには公共交通なども含めた生活基盤は一定の水準に整備・維持されるとともに、通院・通学・買い物などの生活条件についても、大きな支障がない程度に整えられています。

重点3 子育て応援プロジェクト

まちづくりの目標

若者・女性・子育て世代に「選ばれる」環境を整え、住み続けたい・住んでみたいと思えるまちをつくる。

↓

重点3 子どもの育ちをみんなで応援するプロジェクト

西岡委員の意見を参考に、かわりの名称を考えてみました

まちづくりの目標（20年後の姿）

経済的事情などで諦めることなく、個人の意思で結婚、妊娠、出産が選択できるようになっています。子育て世代は、公的支援によって経済的負担が軽減されているだけでなく、周囲の人たちが子どもの成長を見守るとともに、子育ての悩みなどについて共有しています。学校教育に地域の人たちが参画して、子どもたちは、地域の暮らしや歴史も含めて、主体的に多様な学びをしています。

重点4 誰もが元気なまちプロジェクト

まちづくりの目標

超高齢社会に適応し、多世代の支え合いと医療・介護・生活サービスの基盤を維持して、誰もが安心して暮らせるまちをつくる。

↓

まちづくりの目標（20年後の姿）

医療・介護・福祉のサービスが整っているので、病気や事故、加齢などによって生活に支障がでて、世代間で支え合いながら住み慣れた地域で暮らしつづけることができます。

重点5 輝きをもてるまちプロジェクト

まちづくりの目標

「オール南伊勢」で挑戦を支え、町内外の力を結集して持続可能な未来を創るまちをつくる。

↓

まちづくりの目標（20年後の姿）

町外から南伊勢に関心のある多くの人たちが訪れ、町民とともに、さまざまな活動を展開しています。そのなかから、まちの未来を創るためのさまざまなアイデアが生まれ、

町内外の力を結集して、「オール南伊勢」で挑戦がつづけられています。素晴らしい環境を守る取組、環境を産業に生かす取組が行われ、持続可能なまちの未来が展望できています。

重点6 買い物不便・困難対策プロジェクト

まちづくりの目標

買い物の不便や苦労を、地域特性に応じた仕組みで解消し、日常生活の質を守る。

↓

まちづくりの目標（20年後の姿）

地域特性に応じた仕組みで地域の店舗が守られたり、買い物支援のしくみができていて、買い物の不便や苦労が解消されているとともに、地域交通が日常生活の質を守っています。

重点7 健全な自治体経営・未来投資プロジェクト

まちづくりの目標

厳しい人口減少・超高齢化の下でも、必要な施策を持続的に実行できる行政経営へ転換し、未来への投資を可能にする。

↓

まちづくりの目標（20年後の姿）

厳しい財政の下でも、効率的な行政経営と公共資産の活用によって、必要な施策を持続的に実行するとともに、未来を切り開くために必要な財政投資をしています。